Get Ready ① 名詞・冠詞・代名詞

ワークブック本体 pp.4～5

Drill

１

|  |
| --- |
| 1. He has a brother and two sisters.  2. I have bread and butter.  3. She visited many countries.  4. How many classes do you have today?  5. He bought some potatoes for dinner.  6. The children went camping for three days.  7. Those women are teachers at my school. |

【解説】人や物の名前を表す名詞には，数えられる名詞と数えられない名詞がある。「数えられる」とは「１，２，３…」と数えることができる場合を指し，数えるのに形状・容器・単位が必要な場合は「数えられない」と考える。(例) a piece of paper「１枚の紙」，a glass of water「１杯の水」，a liter of milk「１リットルの牛乳」。

1. brother「兄[弟]」，sister「姉[妹]」は数えられる名詞。単数(１人)の場合，名詞の前にaを付ける。複数(２人以上)の場合，名詞の語尾に-sを付けて複数形にする。

2. bread「パン」，butter「バター」はどちらも数えられない名詞。名詞の前にaは付かず，名詞の語尾に-sは付かない。

3. country「国」は数えられる名詞なので，複数形にする。語尾が〈子音字＋y〉の語はyをiに変えて-esを付ける。

4. class「授業」は数えられる名詞なので，複数形にする。語尾がsで終わる語には-esを付ける。

5. potato「ジャガイモ」は数えられる名詞なので，複数形にする。語尾が〈子音字＋o〉の語には-esを付ける。

6. child「子ども」，day「日」は数えられる名詞。childは不規則変化をする名詞で，複数形はchildren。dayのように，語尾が〈母音字＋y〉の語はそのまま-sを付ける。

7. woman「女の人」，teacher「先生」はどちらも数えられる名詞。womanは不規則変化をする名詞で，複数形はwomen/wímɪn/。

２

|  |
| --- |
| 1. Take an umbrella.  2. I have a dog and a cat. The dog sleeps under my bed.  3. He has × useful information.  4. I don’t have × homework today.  5. The moon is smaller than the earth. |

【解説】冠詞は名詞の前に付き，話し手や聞き手の理解の状況(特定されたものか特定されていないものか)を表す。

1.「傘を持って行きなさい。」umbrella「傘」は数えられる名詞で単数形なのでanを付ける。a/anは「不特定のもの」が１つあることを表す。つまり，その会話で初めて出てくる語で，聞き手は何を指しているのか特定できていないことを示す。発音が子音で始まる語の前にはaを，発音が母音で始まる語の前にはanを付ける。a dog /dɔ́(ː)ɡ/, an apple /ǽpl/。どの傘を持っていくかあらかじめ決まっている場合は，Take the umbrella. やTake your umbrella. でもよい。

2.「私は犬と猫を飼っている。犬は私のベッドの下で寝る。」dog「犬」は数えられる名詞で単数形なのでaを付ける。１文目ではaが付いて不特定のものであることを示しているが，２文目ではtheを付けて特定のものであることを示す。theは聞き手が何を指しているのか特定できる場合に，名詞の前に置く。

3.「彼は役に立つ情報を持っている。」information「情報」は数えられない名詞で，特定できない場合は冠詞を付けない。特定できる場合はthe information「その情報」となる。

4.「今日は宿題がない。」homework「宿題」は数えられない名詞で，特定できない場合は冠詞を付けない。特定できる場合はthe homework「その宿題」となる。

5.「月は地球よりも小さい。」１つしか存在しないものにはtheを付ける。その会話で初めて出てきても，聞き手がどれを指しているか特定できるからである。theの発音は，後ろの語の発音が子音で始まるときは/ðə/，母音で始まるときは/ði/と発音する。the moon /ðə múːn/, the earth / ð́i ə́ː*r*θ/。

３

|  |
| --- |
| 1. I visited my grandmother yesterday.  2. I saw him at the party.  3. Tom showed us the picture.  4. We went to watch their soccer game.  5. “Is this yours?” “No, it’s hers.” |

【解説】人称代名詞は人を表す名詞の代わりをする語で，格変化をする。

1. １人称単数の主格はI「私は」で，所有格はmy「私の」で表す。なお，目的格はme「私を」で表す。

2. 男性３人称単数の目的格はhim「彼を」で表す。なお，主格はhe「彼は」，所有格はhis「彼の」で表す。

3. １人称複数の目的格はus「私たちに[を]」で表す。なお，主格はwe「私たちは」，所有格はour「私たちの」で表す。

4. ３人称複数の所有格はtheir「彼らの」で表す。なお，主格はthey「彼らは」，目的格はthem「彼らを」で表す。

5. ２人称単数の所有代名詞はyours「あなたのもの」で，女性３人称単数の所有代名詞はhers「彼女のもの」で表す。ほかの所有代名詞はmine「私のもの」，his「彼のもの」，ours「私たちのもの」，yours「あなた方のもの」，theirs「彼らのもの」となる。所有代名詞「～のもの」は〈所有格＋名詞〉の代わりとして用いる。(例) “Is this your bag?” “Yes, it’s mine.”「これはあなたのかばんですか。」「はい。私のかばんです。」

Get Ready ② be動詞・一般動詞

ワークブック本体 pp.6～7

Drill

１

|  |
| --- |
| 1. I am good at tennis.  2. You are kind to children.  3. He is from Okinawa.  4. It is a popular doll.  5. The bus is often late.  6. They are tourists from China. |

【解説】be動詞は「～である」「(～に)いる，ある」を表す。主語の人称や時制によって形が変わる。

1.「私はテニスが得意だ。」主語が１人称単数Iなので，amを選ぶ。

2.「あなた[方]は子どもたちに親切だ。」主語が２人称単数[複数]Youなので，areを選ぶ。

3.「彼は沖縄出身だ。」主語が３人称単数Heなので，isを選ぶ。

4.「それは人気のある人形だ。」主語が３人称単数Itなので，isを選ぶ。

5.「そのバスはしばしば遅れる。」主語のbusは３人称単数なので，isを選ぶ。

6.「彼らは中国から来た観光客だ。」主語が３人称複数Theyなのでareを選ぶ。

２

|  |
| --- |
| 1. I was at home at that time.  2. People were surprised at the news.  3. It was an exciting game.  4. The mountains were beautiful.  5. Emily was an exchange student from Canada.  6. We were happy to see you. |

【解説】be動詞の過去形「～だった」「(～に)いた，あった」はwasとwere。

1.「私はその時，家にいた。」主語がIなのでwasを選ぶ。

2.「人々はその知らせに驚いた。」主語の複数名詞Peopleは３人称複数として扱うので，wereを選ぶ。

3.「それはわくわくする試合だった。」主語がItなのでwas。

4.「その山々は美しかった。」主語は複数名詞なのでwere。

5.「エミリーはカナダからの交換留学生だ。」主語Emilyのような人名は固有名詞と呼び，３人称単数として扱うので，wasを選ぶ。

6.「私たちはあなたに会えてうれしかった。」主語が１人称複数Weなので，wereを選ぶ。

３

|  |
| --- |
| 1. I live in Tokyo.  2. We have [eat] lunch together.  3. They look [seem] happy.  4. She loves ice cream.  5. Tom goes to school every day.  6. Emily studied hard yesterday. |

【解説】be動詞以外の動詞を一般動詞と呼ぶ。「～する」を表し，主語の人称や時制によって形が変わる。

1. live「住む」の現在形はliveである。

2. have/eat「～を食べる」の現在形はhave/eatである。

3. look「～に見える」の現在形はlookである。seemも可。

4. love「～が大好きだ」を用いる。主語が３人称単数で，現在形の場合は一般動詞の語尾に-sか-esを付ける。

5. go「行く」の３人称単数現在(３単現)の形はgoes。

6. study「勉強する」の過去形はstudiedである。動詞の活用には規則変化と不規則変化があり，規則変化をするものは語尾に-edを付けて過去形にする(→ ワークブック本体p.8 Get Ready③ 参照)。

４

|  |
| --- |
| 1. (Do) you drink coffee?  2. (Does) the store open at ten?  3. (Do) they always come to the meeting?  4. (Did) you enjoy ice skating yesterday?  5. Does Mike (walk) to school?  6. I (don’t) cook very often.  7. My brother (doesn’t) read newspapers.  8. She (didn’t) wait for him last Sunday.  9. The engine doesn’t (start) quickly.  10. She didn’t (know) his name then. |

【解説】一般動詞の疑問文は〈Do [Does, Did]＋主語＋動詞の原形 …?〉「～します[しました]か。」，否定文は〈主語＋don’t [doesn’t, didn’t]＋動詞の原形〉「～しません[しませんでした]」である。

1.「コーヒーを飲みますか。」主語に合わせてDoを選ぶ。

2.「その店は10時に開店しますか。」主語が３人称単数なのでDoesを選ぶ。open「開く，開店する」。

3.「彼らはいつも会議に来ますか。」主語に合わせてDoを選ぶ。

4.「あなたは昨日，アイススケートを楽しみましたか。」yesterday「昨日」がある過去形の文なので，Didを選ぶ。

5.「マイクは学校に歩いてきますか。」疑問文では動詞は原形。

6.「私はあまり料理をしない。」主語に合わせてdon’tを選ぶ。

7.「私の兄[弟]は新聞を読まない。」主語が３人称単数なのでdoesn’tを選ぶ。

8.「彼女は先週日曜日，彼を待たなかった。」last Sunday「先週日曜日」と過去形の文なので，didn’tを選ぶ。

9.「そのエンジンはすぐにはかからない。」否定文では動詞は原形にする。

10.「彼女はその時，彼の名前を知らなかった。」否定文では動詞は原形にする。

Get Ready ③ 動詞の活用

ワークブック本体 pp.8～9

Drill

１

|  |
| --- |
| 1. I cooked [made] dinner yesterday.  2. I have just finished my work.  3. This picture was taken by my brother.  4. He was reading a book then. |

【解説】動詞を活用させることで，時制や態を表す。動詞によって規則活用するものと不規則活用するものがある。

1. yesterday「昨日」は過去のことを表すので，動詞を過去形にする。cook「～を料理する」は規則動詞なので，-edを付けてcookedにする。make「～を作る」は不規則動詞で，過去形はmade。

2. just「ちょうど」を伴った動作の完了を表す現在完了形の文なので，動詞を〈have＋過去分詞〉にする。finish「～を終える」は規則動詞なので，finishedにする。

3.〈by＋動作主〉から，受動態〈be動詞＋過去分詞〉「～された」の文を作るとわかる。take「～をとる」は不規則動詞で，過去分詞形はtaken。

4. then「そのとき」とbe動詞のwasから，過去の時点で進行中の動作を表す過去進行形とわかる。動詞を〈was＋-ing形〉にする。

２

|  |
| --- |
| 1. call – called – called – calling  2. arrive – arrived – arrived – arriving  3. carry – carried – carried – carrying  4. stay – stayed – stayed – staying  5. drop – dropped- dropped – dropping  6. happen – happened – happened – happening |

【解説】規則動詞の活用は，語尾に-(e)dを付けて過去形・過去分詞形に，-ingを付けて-ing形(現在分詞形・動名詞)にする。

1. callは-edや-ingをそのまま付ける，規則動詞の基本の活用をする。

2. arriveは語尾が-eで終わるため，過去形・過去分詞形は-dだけを付ける。-ing形は-eをとって-ingを付ける。

3. carryは語尾が〈子音字＋y〉で終わるため，過去形・過去分詞形はyをiに変えて-edを付ける。-ing形はそのまま-ingを付ける。

4. stayは語尾が〈母音字＋y〉で終わるため，過去形・過去分詞形はそのまま-edを，-ing形もそのまま-ingを付ける。

5. dropは語尾が〈アクセントがある短母音＋1子音字〉で終わるため，最後の子音字を重ねて-edや-ingを付ける。

6. happenは語尾が〈アクセントがない短母音＋1子音字〉で終わるため，そのまま-edや-ingを付ける。

３

|  |
| --- |
| 1. put – put – put – putting  2. bring – brought – brought – bringing  3. find – found – found – finding  4. have – had – had – having  5. hear – heard – heard – hearing  6. leave – left – left – leaving  7. meet – met – met – meeting  8. say – said – said – saying  9. send – sent – sent – sending  10. sleep – slept – slept – sleeping  11. tell – told – told – telling  12. eat – ate – eaten – eating  13. fall – fell – fallen – falling  14. give – gave – given – giving  15. show – showed – shown – showing  16. speak – spoke – spoken – speaking  17. write – wrote – written – writing |

【解説】不規則動詞の活用には，原形・過去形・過去分詞形が同じA-A-A型，原形と過去分詞形が同じA-B-A型，過去形と過去分詞形が同じA-B-B型，すべて違うA-B-C型がある。

1. putの活用はA-A-A型。-ing形は〈アクセントがある短母音＋1子音字〉なので，子音字を重ねて-ingを付ける。

2. bringの過去形・過去分詞形はbrought / /。2～11までの動詞の活用はすべてA-B-B型。

3. findの過去形・過去分詞形はfound / /。

4. haveの過去形・過去分詞形はhad。-ing形は-eをとって-ingを付ける。

5. hearの過去形・過去分詞形はheard / /。

6. leaveの過去形・過去分詞形はleft。-ing形は-eをとって-ingを付ける。

7. meetの過去形・過去分詞形はmet / /。

8. sayの過去形・過去分詞形はsaid / /。

9. sendの過去形・過去分詞形はsent。

10. sleepの過去形・過去分詞形はslept。

11. tellの過去形・過去分詞形はtold / /。

12. eatの過去形はate / /，過去分詞形はeaten / /。-ing形はそのまま-ingを付ける。12～17までの動詞の活用はすべてA-B-C型。

13. fallの過去形はfell / /，過去分詞形はfallen / /。

14. giveの過去形はgave / /，過去分詞形はgiven

/ /。-ing形は-eをとって-ingを付ける。

15. showの過去形はshowed，過去分詞形はshown / /。

16. speakの過去形はspoke / /，過去分詞形はspoken

/ /。

17. writeの過去形はwrote / /，過去分詞形はwritten

/ /。-ing形は-eをとって-ingを付ける。

Get Ready ④ 形容詞・副詞

ワークブック本体 pp.10～11

Drill

１

|  |
| --- |
| 1. I bought her new album.  2. It is a dangerous place.  3. He is busy now.  4. He became rich.  5. His advice was very useful.  6. Emily went shopping yesterday.  7. Please come here.  8. She ate lunch quickly. |

【解説】1. 名詞albumの状態を表す形容詞newを入れる。形容詞が名詞を修飾するのが限定用法。

2. 名詞placeを修飾する形容詞dangerousを入れる。

3. 代名詞Heの状態を表す形容詞busyを入れる。〈主語＋動詞＋形容詞〉の語順で，形容詞が主語の性質・状態を表すのが叙述用法。叙述用法にはもう１つ〈主語＋動詞＋名詞＋形容詞〉の語順で，形容詞が目的語(名詞)の性質・状態を表す用法もある。(例) She painted the wall **brown**.「彼女は壁を茶色に塗った。」

4. 主語Heの状態を表す形容詞richを入れる。

5. 主語His adviceの性質を表す形容詞usefulを入れる。

6. 動詞wentを修飾する副詞yesterdayを入れる。副詞は「いつ」「どこで」「どのように」などを表し，動詞・形容詞・副詞などを修飾する。文の主要素ではなく，副詞がなくてもその文は成り立つ。

7. 動詞comeを修飾する副詞hereを入れる。

8. 動詞ateを修飾する副詞quicklyを入れる。

２

|  |
| --- |
| 1. small – smaller – smallest  2. tall – taller – tallest  3. high – higher – highest  4. young – younger – youngest  5. old – older – oldest  6. hot – hotter – hottest  7. cold – colder – coldest  8. long – longer – longest  9. short – shorter – shortest  10. heavy – heavier – heaviest  11. easy – easier – easiest  12. difficult – more difficult – most difficult  13. hard – harder – hardest  14. good – better – best  15. strong – stronger – strongest  16. popular – more popular – most popular  17. famous – more famous – most famous  18. important – more important – most important  19. well – better – best  20. carefully – more carefully – most carefully |

【解説】形容詞や副詞には，２つのものや２人を比べて「より～，もっと～」を表す比較級や，「いちばん～，最も～」を表す最上級に変化する用法がある。変化の形には，-er, -estを付ける規則変化，more, mostを付ける規則変化，形をまったく変える不規則変化がある。

1. smallのように１音節の語の規則変化は，-erを付けて比較級に，-estを付けて最上級にする。

2. tallは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。

3. highは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。highは山・壁など，頂点の位置が「高い」ものに，tallは人や植物など，細長く伸びていて，下から上までの高さがわかる「高い」ものに用いることが多い。

4. youngは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。

5. oldは１音節の語で-er, -est型の規則変化をする。「(兄弟・姉妹のうちで)年長の～」という意味では，比較級elder，最上級eldestとなることもある。

6. hotは１音節の語で-er, -est型の規則変化をするが，語尾が〈短母音＋1子音字〉なので，子音字を重ねて-er, -estを付ける。

7. coldは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。

8. longは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。

9. shortは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。

10. heavyのように短い２音節の語は，-er, -est型の規則変化をする。語尾が〈子音字＋y〉なので，yをiに変えて-er, -estを付ける。

11. easyは短い２音節の語で-er, -est型の規則変化をするが，語尾が〈子音字＋y〉なので，yをiに変えて-er, -estを付ける。

12. difficultのように３音節の語の規則変化は，語の前にmore, mostを付ける。

13. hardは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。

14. goodは１音節の語で，不規則変化をする。比較級はbetter，最上級はbestとなる。

15. strongは１音節の語で，-er, -est型の規則変化をする。

16. popularは３音節の語で，more, most型の規則変化をする。

17. famousのように２音節の語の多くは，more, most型の規則変化をする。

18. importantは３音節の語で，more, most型の規則変化をする。

19. wellは１音節の語で，goodと同じ不規則変化をする。比較級はbetter，最上級はbestとなる。

20. carefullyのように語尾が-lyの副詞は，more, most型の規則変化をする。ただし，early「早く」は-er, -est型の規則変化である。

Lesson 1 文の種類

ワークブック本体 pp.13～15

Quick Review

|  |
| --- |
| 1. I am hungry.  2. I play volleyball.  3. You aren’t careful.  4. I don’t drink coffee.  5. Does he get angry?  6. Which color do you like?  7. Who wants a dog?  8. Be active.  9. Come to the party.  10. Please call him.  11. How beautiful this flower is! |

【解説】1. 肯定文は〈主語(S)＋動詞(V) …〉の語順。be動詞は主語に合わせて形が変わるので注意する。

2. 主語が３人称単数で時制が現在の場合，一般動詞には-sを付ける(３単現の-s）。１人称(I, we)や２人称(you)，３人称複数(theyなど)の場合は-sは付けない。

3. be動詞の否定文は，be動詞の後にnotを置くが，短縮形になることが多い。are notでも可。

4. 一般動詞の否定文は，動詞の前に〈do [does, did]＋not〉やその短縮形を置き，動詞を原形にする。do notでも可。

5. Yes/No疑問文はbe動詞・Do [Does, Did]を文頭に置く。一般動詞の場合，主語の後に動詞の原形を置く。

6. 疑問詞で始まる疑問文は，疑問詞(＋名詞)を文頭に置き，その後はYes/No疑問文の語順にする。

7. 疑問詞が主語の場合は，〈疑問詞＋動詞 …?〉の語順となる。疑問詞は普通，単数扱いなので３単現の-sを付ける。

8. 命令文は主語を付けず，動詞の原形で文を始める。形容詞の前にはbe動詞が必要。

9. 一般動詞の命令文も動詞の原形で文を始める。否定の命令文はbe動詞でも一般動詞でも〈Don’t＋動詞の原形〉の形になる。

10. 命令文はpleaseを付けると「～してください」と命令口調を和らげる表現になる。Let’sを付けると「（一緒に）～しましょう」と勧誘・提案を表す表現になる。

11. 感嘆文は「なんて～なんでしょう！」と感動や驚きを表す。主語の前に形容詞や副詞を出して強調し，〈How＋形容詞[副詞]＋S＋V!〉の語順にする。このほかに，〈What＋(a/an＋)形容詞＋名詞＋S＋V!〉の表現もある。

Quiz

|  |
| --- |
| 1. He is hungry.  2. She plays volleyball.  3. Her child isn’t careful.  4. My sister doesn’t drink coffee.  5. Is he angry?  6. Which sport do you like?  7. Who has a dog?  8. Don’t be passive.  9. Don’t go to the party.  10. Let’s call him.  11. How small this flower is! |

【解説】本書のQuizはパターンプラクティスになっている。パターンプラクティスは，１つの文を指示に従って変化させることで，構文の理解を確認する練習である。

1.「彼はおなかがすいている。」

2.「彼女はバレーボールをする。」

3.「彼女の子どもは注意深くない。」

4.「私の姉[妹]はコーヒーを飲まない。」

5.「彼は怒っていますか。」

6.「どのスポーツがお気に入りですか。」

7.「誰が犬を飼っていますか。」

8.「消極的でいてはいけません。」

9.「パーティーに行ってはいけません。」

10.「彼に電話をかけましょう。」

11.「この花はなんて小さいのでしょう！」

Exercise 1

１

|  |
| --- |
| 1. I’m not sick. I am O.K.  2. Jim doesn’t have a cat.  3. Mr. and Mrs. Smith are not full.  4. Be kind to old people.  5. Don’t be afraid of mistakes. |

【解説】1. isn’t, aren’tなどは〈be動詞＋not〉の短縮形だが，I am notの短縮形のみ×*amn’t*という短縮形はなく，I’m notとなる。I am notでも可。

2. 一般動詞のhave [has]はdon’t [doesn’t]を用いて否定する。完了形のhave [has]と混同しないこと。

3. 主語はMr. SmithとMrs. Smithの2人なので，動詞は3人称単数のisではなく3人称複数のareを用いる。

4. kindは形容詞なので，動詞はbeを用いる。

5. 否定の命令文はbe動詞の場合も〈Don’t＋動詞の原形〉となる。

２

|  |
| --- |
| 1. Do they go to school by bike?―Yes, they do.  2. Does Mary understand Japanese?―No, she doesn’t.  3. Is Kate in hospital now?―No, she isn’t.  4. Were they at school then?―No, they weren’t.  5. Did Lisa make cookies for you?―Yes, she did. |

【解説】Yes/No疑問文の答えは〈Yes/No,＋主語(S)の代名詞＋be動詞/do [does, did] (＋not).〉となる。主語や時制を合わせて答えること。

1.「彼らは自転車で学校に行きますか。」「はい，行きます。」

2.「メアリーは日本語を理解しますか。」「いいえ，理解しません。」

3.「ケイトは今，入院していますか。」「いいえ，していません。」be in hospital「入院している」。

4.「彼らはその時，学校にいましたか。」「いいえ，いませんでした。」

5.「リサはあなたのためにクッキーを作りましたか。」「はい，作りました。」

３

|  |
| --- |
| 1. “How are you?” “I am tired.”  2. “What do you want?” “I want a pen.”  3. “Who won the race?” “Mike did.”  4. “Why were you absent from school?” “Because I had a cold.”  5. “When did you go to Kyoto?” “I went there last week.” |

【解説】1.「お元気ですか[調子はどうですか]。」「私は疲れています。」様子や状態を尋ねる疑問詞はhow「どのように」である。

2.「何が欲しいですか。」「ペンが1本欲しいです。」物について尋ねる疑問詞はwhat「何を」である。

3.「誰が競走に勝ちましたか。」「マイクが勝ちました。」主語となる人を尋ねる疑問詞はwho「誰が」である。疑問詞が主語の場合，疑問文でもdoesやdidを用いない。返答は〈主語(S)＋does [do, did].〉となる。win- won /wʌ́n/ -won /wʌ́n/「～に勝つ」。

4.「なぜ学校を休んだのですか。」「風邪を引いていたからです。」理由を尋ねる疑問詞はwhy「なぜ」である。返答は〈Because＋S’＋V’.〉「～だから」を用い，通例，質問文と同じS＋Vは繰り返さない。

5.「いつ京都に行きましたか。」「先週，そこに行きました。」時を尋ねる疑問詞はwhen「いつ」である。

Exercise 2

４

|  |
| --- |
| 1. (How) fast the dog is running!  2. (How) beautiful those (flowers) are!  3. (What) a tall (tree) that is! |

【解説】感嘆文「なんて～なんでしょう！」には2種類あり，〈How＋形容詞[副詞]＋S＋V!〉または〈What＋(a/an＋)形容詞＋名詞＋S＋V!〉のいずれかを用いる。S＋Vは省略されることもある。

1.「その犬はなんて速く走るのでしょう[走っているのでしょう]！」副詞fastを修飾するにはHowを用いる。

2.「あれらの花はなんて美しいのでしょう！」形容詞beautifulを修飾するにはHowを用いる。thoseはthatの複数形である。後に続く名詞も複数形になる。

3.「あれはなんて高い木なのでしょう！」名詞句a tall treeを修飾するにはWhatを用いる。

５

|  |
| --- |
| 1. We are lost. (Let’s ask the police officer).  2. Don’t dive into the pool.  3. “(Whose racket is this)?” “It’s Emily’s.” |

【解説】1.「～しましょう」と提案を表す〈Let’s＋動詞の原形〉を用いる。

2.「～してはいけません」は否定の命令文〈Don’t＋動詞の原形〉で表す。前置詞intoは「～の中へ」という動きを表す。

3. 疑問形容詞whose「誰の」は所有者を尋ねるときに用い，直後に名詞を置く。返答はIt’s Emily’s (racket).のように，名詞を省略することが多い。

６

|  |
| --- |
| 1. “Which [What] train did you take?” “I took the express.”  2. What a fast runner he is! |

【解説】1. 疑問形容詞which「どの～，どちらの～」は〈which＋名詞〉の語順で用いる。疑問形容詞what「どんな～」を用いてもよい。whichは決まった人や物の中からの選択に，whatは漠然とした人や物の中からの選択に用いる。

2. 名詞句a fast runnerを修飾する感嘆文なので，〈What

＋a/an＋形容詞＋名詞＋S＋V!〉の表現を用いる。fastは形容詞「速い」と副詞「速く」の両方の意味を持つ語である。ここでは形容詞として使われている。

Dialogue Writingの対話例

A: **What** did you eat for dinner last night**?**

B: I ate spaghetti.

A: Did you? I had pizza.

【解説】「何を…」と尋ねる文。料理には１つ，２つと数えられないものも多く，その場合は冠詞のaを付けない。eatもhaveも「～を食べる」の意味。Did you?「そうなんですか。」と相手の行為をわかったと示す相づち。

Lesson 2-1 文型と動詞 ①

ワークブック本体 pp.16～18

Quick Review

|  |
| --- |
| 1. He reads books in the library.  2. I am a member of the soccer team.  3. She is funny.  4. Tom comes to school by train.  5. I got up early this morning.  6. There is a park near my house.  7. Is there a station around here?  8. Our teacher is [teachers are] friendly.  9. The singer seems popular among girls.  10. Keep warm in your coat.  11. I often drink tea.  12. He doesn’t have any brothers or sisters. |

【解説】主語(S)は日本語の「～は」「～が」に，動詞(V)は「～である」「～する」に，目的語(O)は「～を」にあたる語であり，補語(C)は主語や目的語が「何であるか」「どのような状態であるか」を説明する語である。

1. Heが主語(S)。主語が３人称単数で時制が現在なので動詞(V) readには３単現の-sが付く。booksは目的語(O)，前置詞句in the libraryは修飾語(M)である。

2.〈冠詞＋名詞〉a memberは主語Iを説明する補語(C)。補語は文の主要素の１つで，名詞や形容詞がくる。なくても文が成り立つ修飾語(M)とは異なる。

3. 形容詞funnyは主語Sheを説明する補語(C)。

4. Tomが主語(S)，comesが動詞(V)。前置詞句to school，by trainは修飾語(M)。SVの第１文型。この文型で用いる動詞は目的語(O)を必要としない自動詞である。

5. Iが主語(S)，got upが動詞(V)のSVの第１文型。earlyは副詞で修飾語(M)である。get up「起きる」のように，２語以上からなる動詞を群動詞という。

6.〈There＋be動詞＋主語〉「～がある」の構文。場所を表す語句を伴うことが多い。主語が文頭にこない点に注意する。主語に応じてbe動詞の形が変わる。

7. There is構文の疑問文は〈be動詞＋there＋主語?〉の語順。返答はYes, there is. / No, there isn’t.などのようにthereを用いる。否定文はbe動詞の後にnotを置く。

8. Our teacherが主語(S)，isが動詞(V)，形容詞friendlyが補語(C)のSVCの第２文型。「先生」が複数いると考え，Our teachers are friendly.としてもよい。

9. SVCの第２文型で用いられる動詞はbe動詞の他に，look「～に見える」，seem「～に思われる」など外見・様子を表す自動詞がある。３単現の-sを忘れないように。

10. SVCの第２文型で用いられる状態を表す動詞にはkeep「ずっと～である」，remain「～のままでいる」などがある。「コートの中でずっと暖かい状態でいなさい」と考える。

11. Iが主語(S)，drinkが動詞(V)，名詞teaが目的語(O)のSVOの第３文型。このように，目的語を必要とする動詞を他動詞という。頻度を表す副詞oftenはbe動詞の後，一般動詞の前に置く。

12.「彼には～がいる」は「彼は～を持っている」と考え，動詞haveを用いる。not … any＋名詞「１つも…ない」。

Quiz

|  |
| --- |
| 1. They read books in the library.  2. He is a member of the soccer team.  3. You are funny.  4. Does Tom come to school by train?  5. I didn’t get up early this morning.  6. There are two convenience stores near my house.  7. There isn’t a station around here.  8. You are friendly.  9. The singer became popular among girls.  10. You look [seem] warm in your coat.  11. Emily often drinks tea.  12. Does he have any brothers or sisters? / Doesn’t he have any brothers or sisters? |

1.「彼らは図書館で本を読みます。」

2.「彼はサッカーチームのメンバーです。」

3.「あなたはおもしろい。」

4.「トムは電車で学校に来ますか。」

5.「今朝，私は早起きしなかった。」

6.「私の家の近くにコンビニが２店あります。」

7.「このあたりに駅はありません。」

8.「あなたは親しみやすい。」

9.「その歌手は女の子たちの間で人気になった。」

10.「あなたはコートを着て暖かそうに見える。」

11.「エミリーはよく紅茶を飲みます。」

12.「彼には兄弟や姉妹がいますか。／彼には兄弟や姉妹が(１人も)いないのですか。」

Exercise 1

１

|  |
| --- |
| 1. The TV reporter came to our city.  ( S ) ( V )  2. This question seems difficult.  ( S ) ( V ) ( C )  3. Mr. Sato taught us about global warming.  ( S ) ( V ) ( O )  4. There is a post office on this street.  ( V ) ( S )  5. My sister became a nurse.  ( S ) ( V ) ( C ) |

【解説】1.「そのテレビレポーターは私たちの市に来た。」comeの過去形であるcameが動詞(V)，その前の名詞句The TV reporterが主語(S)。SVの第１文型。

2.「この質問は難しそうだ。」seem「～に思われる」は第２文型SVCの動詞。This question (S)＝difficult (C)の関係が成り立つ。

3.「佐藤先生は私たちに地球温暖化について教えた。」teachの過去形であるtaughtが動詞(V)。usは動詞の対象であるから目的語(O)である。Mr. Sato (S)≠us(O)であることからSVCではなくSVOの第３文型だと見分ける。

4.「この通りに郵便局があります。」There is構文はSVの第１文型。主語(S)はbe動詞の後の名詞である。

5.「私の姉[妹]は看護師になった。」become「～になる」は第２文型SVCをつくる動詞。My sister (S)＝a nurse (C)の関係が成り立つ。

２

|  |
| --- |
| 1. I walk to school with my friend. (SV)  Meg smiled at me. (SV)  2. The door remains open. (SVC)  She kept silent. (SVC)  3. My mother keeps a diary. (SVO)  He often drinks coffee. (SVO) |

【解説】1.「私は友達と徒歩で通学する。」IがS，walkがVで，前置詞句to schoolとwith my friendはM。「メグは私にほほえんだ。」MegがS，smiledがVで，前置詞句at meはM。

2.「ドアは開いたままである。」The door (S)＝open (C)が成り立つことからSVCの第２文型。「彼女は黙ったままだった。」She (S)＝silent(C)が成立するのでSVC。

3.「私の母は日記をつけている。」My mother (S)≠a diary (O)からSVOの第３文型。動詞keepはさまざまな文型で用いられ，第３文型では「～を保つ」の意味。「彼はよくコーヒーを飲む。」coffeeはdrinkの目的語。

３

|  |
| --- |
| 1. The bus sometimes arrives [arrived] late.  2. My uncle lives [lived] in an apartment.  3. We laughed at the TV show last night.  4. There are [were] cherry trees in the park. |

【解説】1.「そのバスは時々遅れて到着する。」SVの文。The busがS，arrivesがV，副詞lateがM。なお，過去形のarrivedを入れると，「そのバスは時々遅れてやって来た。」と過去の習慣的な動作・出来事を表す文になる。

2.「私のおじはアパートに住んでいる[いた]。」SVの文。

3.「私たちは昨夜のテレビ番組を見て笑った。」SVの文。

4.「公園に桜の木々がある[あった]。」SVのThere is構文。主語が複数の場合，be動詞はare [were]を使う。

４

|  |
| --- |
| 1. It will get cold this evening.  2. The story sounds interesting.  3. The child kept quiet in the bus.  4. The soup smells nice. |

【解説】1.「今晩は冷えるでしょう。」SVCの文。寒暖を表すItがS，get「～になる」がV，coldがC。

2.「その話はおもしろそうだ。」SVCの文。sound「～に聞こえる」は感覚を表す第２文型の動詞。

3.「その子どもはバスの中でずっと静かにしていた。」SVCの文。The child(S)＝quiet (C)が成り立つ。

4.「そのスープはおいしそうなにおいがする。」SVCの文。smell「～のにおいがする」は感覚を表す第２文型の動詞。

Exercise 2

５

|  |
| --- |
| 1. There is a vase on the table.  2. There is a sofa next to the desk.  3. There are two pictures [paintings] on the wall. |

【解説】1.「テーブルの上に(１つの)花びんがある。」〈There is a/an＋単数名詞〉「～が(１つ)ある」。

2.「机の隣にソファが(１台)ある。」next to「～の隣に」。

3.「壁に２枚の絵画がある。」複数名詞が主語となる場合，be動詞はareになる。

６

|  |
| --- |
| 1. (I got some tomatoes) from her.  2. (There were three carrots) in the paper bag.  3. Kate (looked happy at the news). |

【解説】1. SVOの文。IがS，gotがV，some tomatoesがO。getはさまざまな文型で用いられる動詞であり，第３文型では「～を手に入れる，～を受け取る」の意味。

2. SVのThere is構文。主語が複数で時制が過去の場合，be動詞はwereとなる。

3. SVCの文。Kate (S)＝happy (C)が成り立つ。look「～に見える」は第２文型をつくる動詞。

７

|  |
| --- |
| 1. Mike isn’t [is not] tired at all.  2. My grandfather took me to a lake. |

【解説】1. SVCの否定文。MikeがS，形容詞tired「疲れた」がC。not ～ at all「全然[まったく]～ない」。

2. SVOの文。My grandfatherがS，tookがV，meがO。〈take 人 to＋場所〉「(人)を(場所)へ連れて行く[連れて来る]」。

Dialogue Writingの対話例

A: **Is** Kaito quiet?

B: No, he isn’t.

A: Oh, really? He looks quiet.

【解説】SVCの文。is「～である」とlook「～に見える」を用いて，見た目の判断が正しいかを確認している。

Lesson 2-2 文型と動詞②

ワークブック本体 pp.19～21

Quick Review

|  |
| --- |
| 1. My classmate lent me her notebook.  2. Mr. Kato taught us English.  3. We kept the story secret.  4. My father painted the kitchen white.  5. I found my brother alone at home.  6. He talks about baseball every day.  7. I’ll study science for the exam.  8. He attended the meeting.  9. Anna married the prince.  10. My sister graduated from high school.  11. My aunt ran toward us. |

【解説】1. SVOOの第４文型の文。動詞lend「(人)に(物)を貸す」は人と物の2つの目的語をとり，人→物の順に並べる。活用はlend-lent-lent。

2. SVOOの文。動詞teach「(人)に(物)を教える」の活用はteach-taught-taught。SVOOの文では，１つめのO(人)は人名や代名詞などの短い語句が多い。O(人)が長い場合などは〈SVO(物)＋to/for 人〉の形をとる。(例) Mr. White **taught** English **to** Japanese students.「ホワイト先生は日本人の生徒に英語を教えた。」

3. SVOCの第５文型の文。目的語(O)を補語(C)が説明しており，O＝Cの関係が成り立つ。用いられる動詞は限られており，「OをCの状態にしておく」の意味ではkeepを用いる。keepはSVCで「ずっと～である」やSVOで「～を保つ」の意味も持つ。活用はkeep-kept-kept。

4. SVOCの文。paint「OをC(色など)に塗る」を用いる。the kitchen (O)＝white (C)の関係が成り立つ。OとCの語順を逆にしないよう注意する。

5. SVOCの文。「OがCだとわかる」にはfindを用いる。aloneは形容詞で「たった１人だ」の意味。findはSVOで「～を見つける」やSVOOで「(人)のために(物)を見つける」の意味も持つ。(例) He **found** *me a job*.（彼は私に仕事を見つけてくれた。）活用はfind-found-found。同じような動詞にleaveがある。SVで「出発する」，SVOで「～を去る，置き忘れる」，SVOOで「(人)に(物)を残す」，SVOCで「OをCのままにしておく」の意味になる。

6. 動詞には，目的語(O)をとらない自動詞と，目的語(O)を必要とする他動詞の2種類がある。SVやSVCでは自動詞が，SVOやSVOOやSVOCでは他動詞が用いられる。ここでは自動詞talk「話す，おしゃべりする」を用いる。「～について」は前置詞about。このように，自動詞はよく前置詞を伴う。talk about「～について話す」。

7. 動詞studyは自動詞「勉強する」としても他動詞「～を勉強する」としても使える。ここでは他動詞として使われている。このように1つの動詞が自動詞として使われたり，他動詞として使われたりすることがある。

8. 他動詞の中には，自動詞と間違えやすいものがある。目的語(O)が日本語に「～を」と訳されないためである。他動詞attend「～に出席する」に前置詞toは不要である。

9. 他動詞marry「～と結婚する」に前置詞toやwithは不要である。ただし，be married to「～と結婚している」と受動態の場合はtoが必要になる。ほかに前置詞が不要な動詞には，approach「～に近づく」，reach「～に着く」などがある。

10. 自動詞の中には，他動詞と間違えやすいものがある。「～を卒業する」はgraduate from ～と，前置詞が必要である。なお，「～に入学する」はenterで前置詞は不要。

11. 自動詞と他動詞で意味がまったく異なるものがある。runは自動詞で「走る」だが，他動詞では「～を経営する」の意味を持つ。toward「～の方へ」。

Quiz

|  |
| --- |
| 1. My classmate showed me her notebook.  2. Mr. Kato taught us math [mathematics].  3. We kept our plan secret.  4. My father kept the kitchen clean.  5. I left my brother alone at home.  6. He plays a baseball every day.  7. I’ll study hard for the exam.  8. He attended the class.  9. Anna approached the prince.  10. My sister entered high school.  11. My aunt ran a bookstore. |

1.「私のクラスメートは私にノートを見せてくれた。」

2.「加藤先生は私たちに数学を教えた。」

3.「私たちは計画を秘密にしておいた。」

4.「父はキッチンをきれいに保った。」

5.「私は弟を家に１人のままにしておいた。」

6.「彼は毎日，野球をする。」

7.「私は試験に向けて懸命に勉強します。」

8.「彼はその授業に出席した。」

9.「アナは王子様に近づいた。」

10.「姉は高校に入学した。」

11.「おばは書店を経営していた。」

Exercise 1

１

|  |
| --- |
| 1. (b) He gave her a bag. (SVOO)  2. (e) He got a watch. (SVO)  3. (d) Kate calls him Jimmy. (SVOC)  4. (c) Kate lives in New York. (SV)  5. (a) He became a doctor. (SVC) |

【解説】1.「彼は私に辞書を貸してくれた。」SVOOの文。me(O)≠his dictionary(O)から第４文型とわかる。(b)は「彼は彼女にバッグをあげた。」

2.「彼女のお母さんは彼女にドレスを作った。」〈SVO(物) ＋for 人〉は第３文型。(e)は「彼は腕時計を手に入れた。」

3.「ウォーキングは私たちを健康な状態に保ってくれる。」SVOCの文。us(O)＝healthy(C)から第５文型とわかる。(d)は「ケイトは彼をジミーと呼ぶ。」

4.「雨が降っていたので，私は家にいた。」SVの文。前置詞句at homeと同じく，接続詞を伴う節because it was rainingも修飾語(M)である。(c)は「ケイトはニューヨークに住んでいる。」

5.「彼女はジェットコースターを恐れている。」SVCの文。She (S)＝afraid (C)から第２文型だとわかる。be afraid of「～を恐れている」。(a)は「彼は医者になった。」

２

|  |
| --- |
| 1. My teacher gave me some good advice.  2. I found this book interesting.  3. Kaito sent his grandmother a birthday card.  4. He left the water running.  5. The homerun made them excited. |

【解説】1.「先生は私に良い助言を与えてくれた。」下線部の後はO(人)＋O(物)なので，SVOOで使われる動詞を選ぶ。advice「助言」は数えられない名詞で複数形にならない。

2.「私はこの本がおもしろいとわかった。」this book (O)＝interesting (C)からfind「OがCだとわかる」を選ぶ。

3.「海斗は彼の祖母に誕生日カードを送った。」send「(人)に(物)を送る」はSVOOで用いることができる。活用はsend-sent-sent。

4.「彼は水を出したままにしておいた。」the water(O)＝running(C)「流れている」から，leave「OをCのままにしておく」を選ぶ。

5.「そのホームランは彼らを興奮させた。」them(O)＝excited(C)「興奮した」から，make「OをCにする」を選ぶ。「…にさせる」の意味を持つ動詞を使役動詞と呼ぶ。

３

|  |
| --- |
| 1. My brother (resembles) my father.  2. Did she (marry) the famous actor?  3. Our bus (arrived at) the bus stop on time.  4. I (entered) the room yesterday.  5. They (discussed) the plan. |

【解説】1. resemble「～に似ている」は注意すべき他動詞の１つで，前置詞は不要。

2. marry「～と結婚する」は他動詞で，前置詞は不要。

3. arrive「到着する」は自動詞で，前置詞at/inが必要。

4. enter「～に入る」は他動詞で，前置詞は不要。

5. discuss「～について議論する」は他動詞で，前置詞は不要。talk about「～について話す」と混同しないこと。

Exercise 2

４

|  |
| --- |
| 1. We (named) the (dog) (Lucky).  2. Her father (bought) a present (for) her.  3. Lisa (showed) some photos (to) him. |

【解説】1.「私たちはその犬をラッキーと名付けた。」動詞のnameはSVOCで用いられ，「OをCと名付ける」という意味を表す。

2.「彼女のお父さんは彼女にプレゼントを買ってあげた。」buyは〈SVO(物)＋for 人〉の形をとる動詞。buy, find, makeなど「人のためにしてあげる」動詞にはforを使う。

3.「リサは彼に何枚かの写真を見せた。」showは〈SVO(物) ＋to 人〉の形をとる動詞。show, give, tell, teach, lend, sendなどには方向「～に」を表すtoを用いる。

５

|  |
| --- |
| 1. My father runs a cram school.  2. I (can’t stand his bad manners).  3. (What do you call) this flower in English? |

【解説】1. 他動詞run「～を経営する」を用いてSVOの文を作る。自動詞run「走る」と紛らわしいので注意。

2. 他動詞stand「～を我慢する」を用いてSVOの文を作る。自動詞stand「立つ」と紛らわしいので注意。mannerは単数形で「方法，態度」，複数形で「行儀，風習」の意味を表す。

3. call＋O＋C「OをCと呼ぶ」のCが疑問詞what「何」となり，文頭に出る。返答の仕方はDialogueを参照。

６

|  |
| --- |
| 1. Why did you agree with him?  2. Mr. Suzuki teaches us world history [world history to us]. |

【解説】1.「～に賛成する」はagree with ～で，〈自動詞＋前置詞〉の形をとる。

2.「(人)に(物)を教える」にはtellとteachがあるが，道や名前を教える場合はtellを，知識・技能などを教える場合にはteachを用いる。O(人)がusと短いためSVOOの第４文型で答えるとよいが，〈SVO(物)＋to 人〉の第３文型で答えることもできる。

Dialogue Writingの対話例

A: What do they **call** *koneko* in English?

B: They **call** it a kitten.

A: I see. Thank you.

【解説】英語で何と言うかを尋ねる場合，What is it?「それはなんですか。」ではなく，What do they [you] call ～ in English?「(彼ら[あなた方]は)～を英語で何と呼びますか。」とcallを用いるのが普通。